

平成27年度 第1回学校運営協議会議事録

日時：平成27年4月30日(金)19:00~20:30

場所：秋津小学校 2階会議室

司会：小関 記録：加藤

【出席者】

1	秋津小学校PTA会長	横山 智子	11	市青少年センター所長	高梨 秀胤
2	秋津小学校PTA副会長	野中 千聖	12	秋津小学校校長	菊地 清
3	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	13	秋津小学校教頭	加藤 和生
4	社会福祉協議会秋津支部長	森崎 俊治	14	秋津小学校教務主任	渡辺 雅和
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	15	秋津小学校生徒指導主任	西原口真弘
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝			
7	学校支援ボランティア代表	小関 秀夫			
8	学校支援ボランティア代表	桑名 英一			
9	千葉大学教授	伊坂 淳一			
10	市教育委員会副参事	小宮 健			

【欠席者】 秋津小学校教務主任 渡辺雅和

- 1 委嘱状交付 習志野市教育委員会 市瀬学校教育課部長・加藤指導主事
・委嘱状交付
・教育委員会挨拶

-
- 2 メンバー自己紹介
自己紹介を行う。
-

- 3 委員長・副委員長選出
平成27年度委員長及び副委員長は以下の方が選出され、承認となる。
委員長・・・小関 秀夫(学校支援ボランティア代表)
副委員長・・・横山 智子(秋津小学校PTA会長)
-

- 4 委員長あいさつ
一年間よろしくお願ひします。皆様のご協力をお願いします。

- 5 事務局からの報告

- (1) 平成27年度第1回パートナー会議議事録・・・資料1
教頭～資料に基づいて報告

- 6 協議事項

- (1) 平成27年度学校経営方針について・・・資料4
校長～資料に基づいて提案

<学校経営方針>

伊坂～3月まで付属小の校長をしていた。その際、4月の基本方針や目標がお題目にならないに注意してきた。校での努力目標や1つずつの項目についての職員の自己評価も行った。「何をいつやるか」という目に見える可視化できる目標が大切であると考えている。毎年このような形で行ってきたが、教育の結果はすぐには見えない。提案のあった中でも、「人と関わる力」などはすぐにはできない。そのために学校は何をやったか、例えば、人権教育や福祉教育、道徳を学校一斉に実施したなど、何を何回やったなどと検証していくことが重要である。目標達成のため、ばく然とだけでなく具体的なアクションを起こし、それを検証していくとよい。

野中～「わかる授業」に関して、高校生でも小学校算数が理解できていない生徒も多いと聞いている。そのような状況でとりあえず大学に入っても大変である。小学校では基本をきびしくやってほしい。ドリルが済んだら OK でなく落ちこぼしがないようにしてほしい。

校長～算数は積み重ねの教科である。月 1 回であるが補習教室を実施して、わかると楽しいと児童が感じられる意欲や態度を育てていきたい。夏休みにも津田沼高校生に手伝ってもらおう予定である。学力をつけるため、ふだんの授業や補習教室などあらゆる機会を使って取り組んでいきたい。

伊藤～いじめ 0（ゼロ）や不登校 0（ゼロ）についてはどのようなアクションを起こしていくのか？

校長～学校が楽しい、友達と会って楽しいという子どもや環境を育てていきたい。若い教員が多い。子どもとの日常的なふれあいや体育の研究、重点項目を通して総合的に子ども達を育てていきたい。

司会～いじめは減りましたか？不登校はどのようになっていますか？

校長～いじめは少しずつ減っています。不登校は 4 名で理由はさまざまです。

山下～不登校の原因、家庭や友達関係など学校はつかんでいるのか？

校長～市や本校独自のアンケート調査を定期的実施し活用をしている。生徒指導委員会など活用して組織的に対応している。

山下～家庭との関係は？家庭訪問はどうなったのか？

校長～本年度は実施している。

伊藤～不登校の理由は誰もわからず対策をたてにくい部分がある。学校だけではなく家庭の問題やストレスへの耐性が低いなど様々である。不登校で高い目標を立てると苦しいのではないか。

校長～目標を高くあらゆるもの活用して取り組んでいく。県のアドバイザー、七中のスクールカウンセラー、通級指導教員、ひまわり発達支援センター、など他に不登校は体の具合が悪いお子さんもいる。いろいろな事情があるのでじっくりと取り組んでいきたい。

伊坂～個別の対応は当然やっているはずで、ここで議論して仕方がない。学校運営協議会で目指すことは。スクールカウンセラーの配置ではないか。ただ欠席ゼロだけを目指すのではいいはずがない。個別の話より組織として何をすることが大切。まずはスクールカウンセラーの配置を目指してほしい。

司会～スクールカウンセラーに関して、市内の状況はどうなっていますか？また、他市とくらべていかがですか？

小宮～県が配置しているのは、市内 16 校中 4 校、基本的に 2 週間に 1 日、年間 17 日、東習小・藤崎小・大久保小・谷津南小です。市が雇用している教育相談員は谷津南小、東習志野小、実花小です。中学校は全校、スクールカウンセラーか相談員が毎日います。不登校出現率は中学校は小学校の 10 倍なので充実させています。相談員の雇用にどれだけお金をかけられるか課題です。

司会～市の財政がきびしいのはよくわかるが、教育行政に市長がより深くかかわれるようになってきているので、教育にもっとお金をまわしてほしいものです。今後もパートナー会議でもこの問題はとりあげていきたいと考えます。

伊坂～不登校と同様に学校にきても満たされない子どもも多いと思います。

森崎～結果で干渉するが関心はない家庭が多い。家庭に会話がないうのが問題である。学校だけでなく家庭が今の子どもの状況を把握できていない。学校ができる部分の他に家庭がもっと責任をもってほしい。

司会～学校教育、家庭教育、社会教育のバランスが変わってきているようです。この学校経営方針でご承認よろしいでしょうか？～異議はなし。～

司会～異議がないようですので、承認されたとして次に進めます。

(2) 今年度の教育活動とその評価について

教頭～資料に基づいて提案

<今年度の指導の重点>

村山～補習教室や体育アンケートについての質問。補足説明を行う。

<今年度の取り組み方針：学校評価>

伊坂～今の教頭の話で大切なことはアンケートと学校評価のちがいである。自分たちの立てた目標の中でできたことやできなかったことを分けるのが自己評価である。それはよいが学校関係者評価の用語の使い方があいまいである。これまでの流れで用語がそうなった部分もある。アンケートと学校評価のちがいを意識して取り組みことが大切である。アンケートの意見が十分尊重する必要があるが、学校でできない部分に関しては区別する必要がある。学校が主体的に取り組んだことの評価が学校評価である。学校が主体的にそのような情報を発信して欲しい。

<その他：今後の運営協議会について>

伊坂～今後も地域に密着した学校として、運営協議会の今後を考えていければよい。秋津地区はこれまで地域の方が均質的であり、他の地区のように新旧住民の対立もなくうまくやってくれた。しかし、高齢化が進み次の世代への引き継ぎが課題となってくる。学校を中心とした地域の活性化というこれまでの取り組みは素晴らしいと評価をされている。この先はどうしていくか、みんな考えていく問題である。

司会～秋津地区は高齢化が進み、3人に1人が高齢者という地域もある。マンションでもここをついのすみかとする人が増え、団地としての流動化がなくなってきた。これまで同じ層の方で考えをそろえてうまくやってきましたが、今後の大きな課題です。他に青少年センターの方、ご意見はありませんか？

高梨～この問題とは直接関係ないかもしれませんが、青少年センターとしてもパトロールを強化したりスポーツ団体と連携をしたりして、これからも学校を側面から応援していきたい。

小宮～コミュニティスクールとして今年度から第4期となっている。教育委員会会議でも、教育委員さんから直接質問されることはまだないが、新しいコミュニティスクールとして何か提案できるとよいと思う。充実している地域運動会や秋津まつりに加えて、いじめや学力向上でもよいので何か先を見据えて若い世代を巻き込んでいく必要性を感じた。

伊坂～コミュニティスクールとして今後3年間、次の新しい世代へどうつないでいくか。先進的・実践的な取り組みが課題となっている。教育課程について、これまで特色のある教育を進めてきた。これからを自分も考えていきたい。

司会～今後、この秋津小の特色ある学校運営としてどう持って行くか、われわれがどう関わっていくかをみなさんも考えてほしい。このことを常に頭に入れて考えていきたいと思いますので、みなさんもよろしくお願ひします。時間も過ぎましたので本日はこれで終了します。

平成 27 年度 第 2 回学校運営協議会議事録

日時：平成 27 年 12 月 4 日（金）19:00~20:30

場所：秋津小学校 2 階会議室

司会：教頭・小関 記録：渡辺

【出席者】

1	秋津小学校 P T A 会長	横山 智子	9	市青少年センター所長	高梨 秀胤
2	秋津小学校 P T A 副会長	野中 千聖	10	秋津小学校校長	菊地 清
3	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	11	秋津小学校教頭	加藤 和生
4	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	12	秋津小学校教務主任	渡辺 雅和
5	民生主任児童委員	玉井 恵枝	13	秋津小学校生徒指導主任	西原口真弘
6	学校支援ボランティア代表（情報）	小関 秀夫			
7	学校支援ボランティア代表（環境）	桑名 英一			
8	市教育委員会指導課長	上原 宏			

【欠席者】 千葉大学教授 伊坂 淳一 社会福祉協議会秋津支部長 森崎 俊治

1 新指導課長あいさつ 習志野市教育委員会 学校教育部 指導課 課長 上原 宏

2 会長あいさつ 学校支援ボランティア代表（情報）小関 秀夫より

3 校長あいさつ 習志野市立秋津小学校校長 菊地 清より

4 報告

（ 1 ）平成 27 年度 第 1 回学校運営協議会議事録・・・資料 1

教頭～資料に基づいて報告

（ 2 ）平成 27 年度 第 1 回～第 7 回パートナー会議の内容・・・資料 2

教頭～資料に基づいて報告

（ 3 ）学校評価アンケートの結果から・・・資料 3

教頭～資料に基づいて報告

（ 4 ）学校いじめ防止対策方針、2 学期いじめアンケート結果・・・資料 4

西原口～資料に基づいて報告

伊藤～どのようにアクションをしたのか。やったこと、成果について、新たな問題点について記述した方が評価する側としてはわかりやすい。

司会～報告のあり方について、去年のいじめ防止対策会議では細かく報告されていた。

玉井～（昨年）具体的なケースについて話をした。そして、具体的な対応について話をした。

横山～養護教諭も参加していた。

玉井～養護教諭がよくわかっている。

司会～どれだけ問題・対応を話していけるかどうか。児童心理学的にどうなのか。専門性のある人から見て色々な見方が出てくる。学校運営協議会の中でももう少し踏み込んだ対応の報告が必要であったか。伊藤さんの発言も含め、検討が必要。

教頭～昨年は2部制で行った。(いじめ防止対策会議を独立して開催した。12月のパートナー会議で再度報告させていただく。そして、養護教諭にも参加してもらう。

司会～パートナー会議での報告をお願いします。

5 協議事項

(1)「学校評価の実施と教育活動の改善」について 資料5

教頭～資料に基づいて提案

上原～各学校の重点について、どう評価していくかが大事。教育を数値で評価するのが難しいけれども大事である。可視化すること、可視化できることを増やす。校外、市内における第三者的な評価の観点も必要。評価が次のステップへの評価、活かせる評価でありたい。

横山～基礎基本の定着が厳しい。今後の具体的な対策は。

教頭～アンケートでは適切な内容が回答されてきている。「補習教室ではわからないまま帰ってきている、人数が多い」など、うまく機能していない状態である。今後、習熟度別指導を取り入れていきたい。また「行事が多くて授業が進まないのでは」というご意見もあった。残すものは残す、改善すべきことは改善するようにしていく。「昨年やったから今年もやる」ではなく、必要なものを精選していく。校外学習でたとえば、学習の目的をもう一度確かめて、行き先や時期を考えていく。

横山～家庭での会話を増やしていきたい。

6 その他

第3回学校運営協議会の開催日について・・・3月1日(火)

平成 27 年度 第 3 回学校運営協議会議事録

日時：平成 28 年 3 月 1 日（火）19:00~20:30

場所：秋津小学校 2 階会議室

司会：教頭・小関 記録：渡辺

【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	9	社会福祉協議会秋津支部長	森崎 俊治
2	秋津小学校 P T A 会長	横山 智子	10	市教育委員会指導課長	上原 宏
3	秋津小学校 P T A 副会長	野中 千聖	11	市青少年センター所長	高梨 秀胤
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	12	秋津小学校校長	菊地 清
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	13	秋津小学校教頭	加藤 和生
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	14	秋津小学校教務主任	渡辺 雅和
7	学校支援ボランティア代表(情報)	小関 秀夫	15	秋津小学校生徒指導主任	西原口真弘
8	学校支援ボランティア代表(環境)	桑名 英一			

1 会長あいさつ 学校支援ボランティア代表（情報）小関 秀夫より

2 校長あいさつ 習志野市立秋津小学校校長 菊地 清より

3 報告

（1）平成 27 年度 第 2 回学校運営協議会議事録・・・別紙
教頭～資料に基づいて報告

（2）平成 27 年度 第 1 回～第 9 回パートナー会議の内容・・・別紙
教頭～資料に基づいて報告

伊坂：いじめ重大事態に対しての方針について

保護者に対する理解が難しい。「これは重大事態だ」といってしまえば重大事態になる。これについての考え方や学校の対応の仕方（市の対応）を説明することが大事。

上原：平成 28 年 4 月 1 日から積極的に市教委が関わっていく。文部科学省から基本方針はでているが、そこの中のどこまでが重大事態なのか難しい。市として明確にしていく。

小関：報告を聞く限り、学校はきちっと対応してくれている。

（3）学校評価集計結果から・・・別紙
教頭～資料に基づいて報告

小関：学校だよりで学校の様子がよくわかる。パートナー会議の委員や保護者からの評判もよい。ボランティア活動の様子もよくわかる。貴重な資料である。

七中学校区のミニ集会を開催したが、津田沼高校を中心としたミニ集会は今後も必要である。

地域として秋津まつりのもちつきに千葉工大生がきた。少しずつコミュニティ関連のつながりが増えてきた。新しい取り組みが多くなってきた。

4 協議事項

(1) 「学校評価結果と教育活動の改善」について

小関：あまり背伸びをしないようにした方がよい。できる範囲の中で行っていく。ボランティアも協力していくので言ってもらいたい。

森崎：先生方は一生懸命やっている。5年生での疑似体験や2年生での活動など

学校教育を学校に求めるのはよいが、社会教育や家庭教育は社会、家庭でやるものであって、学校に求めるな。箸の持ち方はうるさいくらいに言っているが今の2年生はほとんどできていない。親が教えて上げる時間がないのか。

5年疑似体験について「面白かった」で終わっている。わかっている子もいるが。家庭でも教えられることである。

お父さんお母さんたちがもっと子どもと話をしてほしい。

上原：家庭教育についてどこまで立ち入れるかはわからないが、情報提供をしていく必要がある。

ただ、なかなか届いていかない。啓蒙の仕方周知の仕方が課題である。

玉井：今年の2年生は優秀。「箸の持ち方を地域の人に教えてもらいなさい」もっと学校から家庭に返してもよい。給食は年に200回程度。でも家庭では年間1000食近くあるので、家庭で教えられるとよい。

森崎：最近の家庭は、干渉はするが関心がない。褒めるのが下手。

社会教育、学校教育、家庭教育とあるが、生涯学習という点でお父さん、お母さんにもっと頑張ってもらいたい。

校長：栄養教諭が箸の持ち方を1年生との食育の時間で情報発信していく取り組みをしている。

山下：孫の学校の給食の時間を見に行ったが、親が責任を持って教えていく必要がある。

伊藤：親もむずかしいのではないかな。

伊藤：英語に対して、学校の先生方は対応していけるのか。地域が手助けできる分野がある。もっと発信していく必要がある。

上原：コミュニケーション能力の素地を作ることが目標。ALTの派遣をしているが、3年生からともなるともっと予算がかかってくる。

校長：5, 6年生が教科になる。いずれは1年生からとなるだろう。週に1, 2回の英語でどこまで狙っているのか。外国語を通じて楽しさを味わう。しかし、英語好きが70%台と低下している。評価については文章表現である。

小関：道徳、英語の教科化。指導者としての資質。東京の学校を見に行ったが、予算があるから、ALTも多い。少人数でALTがついている。

伊坂：ALT、地域のボランティアを活用するのはよいが、小学校の指導者がメインである。ボランティアをコントロールする力が必要。授業を運営する能力。英語も体育と同じで得意、不得意がある。

計画的な研修が必要。家庭の教育力が落ちてきている。しつけに関することは家庭がやる。

家庭に任せるにしてもどのような方法でやるか。学校の先生が「しつけは家庭で」とどこまで言えるか。その体制作りが必要。

学びの突破口ガイドの活用。自分で自分の学習を計画して評価する力をつけていく。

英語は負担にならないように。

横山：学校、家庭、PTA が連携する。家庭教育学級をやっているが参加者が少なく、保護者の意識を変えていく必要がある。

5 その他

次年度学校運営協議会の開催日について

第1回 4月28日(木) 予備日 4月27日(水)

第2回 12月 2日(金)

第3回 3月 1日(水)